



つくば市記者会 御中

つくば市環境生活部危機管理課

常総市マイ・タイムライン検討会の記録集が完成
～2つのモデル地区で行った検討会の記録を取りまとめた資料を作成～

項目(あてはまるものすべてにチェック)

イベント・会議等の事前周知依頼

イベント・会議等の取材依頼

イベント・会議以外の事業の周知依頼

参加者募集の周知依頼

その他 ()

全5枚(本紙含む)

標記について、国土交通省とともにプレスリリースします。

詳細は、2枚目以降の記者発表資料を御覧ください。

また、内容についての詳細なお問い合わせは、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所、または常総市市民生活部安全安心課へお願いいたします(連絡先は2枚目に記載)。

記者発表資料

常総市マイ・タイムライン検討会の記録集が完成 ～ 2つのモデル地区で行った検討会の記録を取りまとめた資料を作成 ～

市町、県、国で構成する鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会では、住民一人ひとりが自分自身の環境に合ったタイムラインを作成する「みんなでタイムラインプロジェクト」を進めています。

平成28年度は、常総市内の若宮戸・根新田の2つのモデル地区において、のべ5回にわたって『マイ・タイムライン検討会』を実施し、住民165名が参加され、自分自身のマイ・タイムラインを検討されました。

このたび、これまでの過程を取りまとめた『**みんなでタイムラインプロジェクト 常総市モデル地区における検討の記録 平成29年3月**』を作成しましたので、今後全国各地で同様の検討会を行う際の**先行事例**として、**下館河川事務所ホームページで公開**します。

1. モデル地区（自治区）

常総市若宮戸地区、根新田地区

2. 検討会メンバー

- ・対象自治区の住民、行政機関（常総市、常総警察署、茨城西南地方広域市町村圏事務組合消防本部下妻消防署石下分署、常総地方広域市町村圏事務組合消防本部水海道消防署、茨城県、気象庁水戸地方气象台、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所）、学識者（川島宏一 筑波大学システム情報系社会工学域 教授、伊藤哲司 茨城大学人文学部人文コミュニケーション学科 教授（地球変動適応科学研究機関 機関長）、白川直樹 筑波大学院システム情報系構造エネルギー工学域 准教授）

3. 下館河川事務所ホームページ 掲載ページURL

<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00285.html>

発表記者クラブ

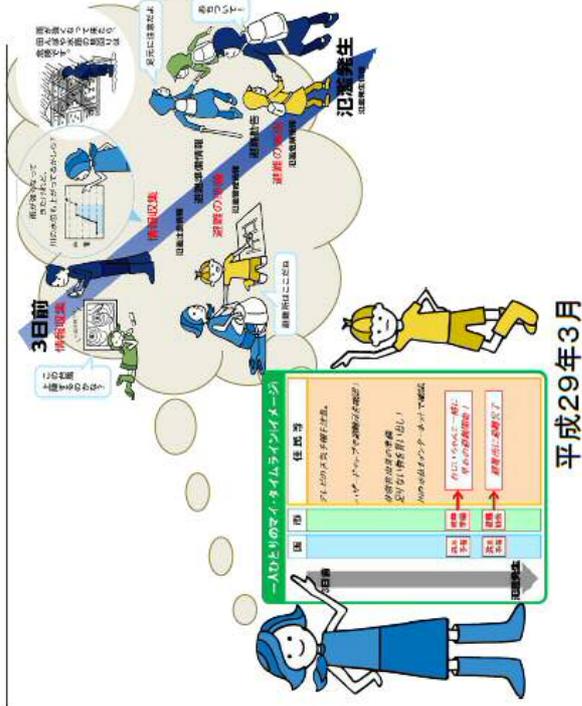
竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、茨城県政記者クラブ、
栃木県政記者クラブ、筑西市記者クラブ、宇都宮市政記者クラブ、取手記者会
筑波研究学園都市記者会、龍ヶ崎記者会、つくば市記者会

問い合わせ先

常総市 市民生活部 安全安心課

国土交通省 関東地方整備局 下館河川事務所

みんなでタイムラインプロジェクト 常総市モデル地区における検討の記録



平成29年3月
常総市マイ・タイムライン検討会

発刊によせて

はじめに

1. 地区代表者への説明会の実施

2. 運営会議の実施

3. マイ・タイムライン検討会の実施（若宮戸地区）

4. マイ・タイムライン検討会の実施（根新田地区）

5. マイ・タイムライン事例集

6. マイ・タイムライン検討会に参加した皆さんの声

7. 関連名簿

8. 報道機関等により取り上げられた情報の紹介

おわりに

※イメージは3月23日時点の作成となります。このため、最終的な公開版とは異なる場合がございます。最終的な公開版は、下館河川事務所ホームページでご確認ください。

マイ・タイムラインとは…

一人ひとりのマイ・タイムライン(イメージ)



マイ・タイムラインの検討の過程で…

- ❗ リスクを認識できる
 - ・自分の家が浸水してしまう
 - ・避難所まで遠い など



- ❗ 逃げるタイミングがわかる
 - ・いつ逃げる?
 - ・誰と逃げる?
 - ・危険な場所をよけて逃げるには?



- ❗ コミュニケーションの輪が広がる

- ・検討会での意見交換などで、知り合いになれる
- ・ご近所とのつながりが強く、太くなる



マイ・タイムラインができると…

- ❗ 災害時の防災行動チェックリストで対応の漏れを防止
- ❗ 災害時の判断をサポート

逃げ遅れゼロ

鬼怒川・小貝川減災対策協議会

「水防災意識社会」の再構築を目指します。

常総市のモデル地区におけるマイ・タイムライン検討会

モデル地区の住民、常総市、警察署、消防署、茨城県、気象庁、国土交通省下館河川事務所に加え、各分野の学識者で構成される『マイ・タイムライン検討会』を設置し、住民一人ひとりがそれぞれの環境に合ったタイムラインを自ら検討する取り組みを進めています。

検討会の進め方

ステップ1 自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知る

- ・過去の洪水を知る
- ・地形の特徴を知る
- ・水害リスクを知る



自分達の住んでいる地区が浸水するかを知らましよう。

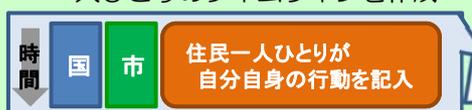
ステップ2 洪水時に得られる情報を知り、タイムラインの考え方を知る

- ・洪水時に得られる情報とその読み解き方を知る
- ・タイムラインの考え方を知る
- ・洪水時の自らの行動を想定



ステップ3 マイ・タイムラインの作成

- ・一人ひとりのタイムラインを作成



これで、逃げるタイミングがわかったわ!

モデル地区

今年度は、若宮戸地区、根新田地区をモデル地区として、検討会を進めます。



学識者

- ・筑波大学システム情報系社会工学科
川島宏一 教授
- ・茨城大学人文学部人文コミュニケーション学科
地球変動適応科学研究機関
伊藤哲司 教授・機関長
- ・筑波大学院システム情報系構造エネルギー工学科
白川直樹 准教授

鬼怒川・小貝川減災対策協議会

「水防災意識社会」の再構築を目指します。

常総市で第1回マイ・タイムライン検討会を実施

常総市において第1回マイ・タイムライン検討会を実施しました。検討会では、参加者お一人お一人に配布したマイ・タイムラインノートという教材に沿って、関係機関の解説を聞きつつ、自宅の位置や家族の構成を書き込んでいただきました。今回はステップ1『自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知る』として、過去の洪水・地形の特徴・水害リスクについて授業形式で実施しました。

- 根新田地区 第1回 平成28年11月20日 住民 73世帯 86名 参加
- 若宮戸地区 第1回 平成28年11月27日 住民 71世帯 80名 参加

←マイ・タイムラインノート

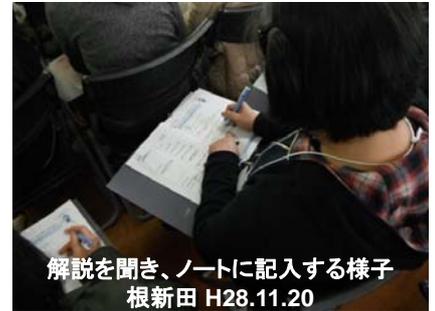
マイ・タイムライン ノート

ノートには「知る」「気づく」「考える」を記入する欄があり、住民は関係機関の解説を聞きながら、自分自身の状況を記入し、最後にマイ・タイムラインを作ります。

↓マイ・タイムラインの抜粋



会場の様子 根新田 H28.11.20



解説を聞き、ノートに記入する様子 根新田 H28.11.20

住民がマイ・タイムラインを記入する欄



解説の様子 若宮戸 H28.11.27



解説を聞き、ノートに記入する様子 若宮戸 H28.11.27

鬼怒川・小貝川減災対策協議会

「水防災意識社会」の再構築を目指します。

常総市で第2, 3回マイ・タイムライン検討会を実施

常総市 根新田地区においては第2, 3回、若宮戸地区では第2回のマイ・タイムライン検討会を行い、住民一人ひとりがそれぞれの環境にあったタイムラインを完成させました。今回はステップ2『洪水時に得られる情報を知り、タイムラインの考え方を知る』、ステップ3『マイ・タイムラインの作成』を実施しました。検討会では、グループ討議やリーダー・代表者による発表を行い、自分一人では気が付かないことを参加者全員で共有しました。今回作成したタイムラインは第1弾であり、今後、家族構成の変化や訓練、実際の洪水の体験を踏まえ、より現状にあったタイムラインへ更新を繰り返していきます。

- 根新田地区 第2回 平成29年 1月29日 住民 51世帯 60名 参加
- 根新田地区 第3回 平成29年 2月19日 住民 49世帯 59名 参加
- 若宮戸地区 第2回 平成29年 2月5日 住民 38世帯 41名 参加



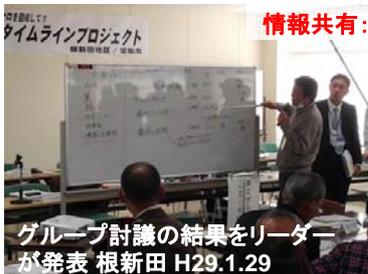
会場の様子 根新田 H29.1.29



グループ討議の様子 若宮戸 H29.2.5



グループの代表者によるタイムラインの発表 若宮戸 H29.2.5

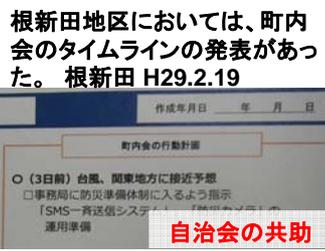


グループ討議の結果をリーダーが発表 根新田 H29.1.29

情報共有：自分一人では気が付かないことを共有



検討会の様子 根新田 H29.2.19



根新田地区においては、町内会のタイムラインの発表があった。 根新田 H29.2.19



住民が作成したタイムライン 若宮戸 H29.2.5

鬼怒川・小貝川減災対策協議会

「水防災意識社会」の再構築を目指します。